

3月7日

殉教者パペチュアと仲間たち

Perpetua

(?～203.3.7)

～若くして殉教した二人の母親達～

<人名事典などでの別表記：ペルペトゥア>

パペチュアは女性であり、カルタゴの初期のキリスト教殉教者です。彼女は貴族の婦人としてキリスト教の信仰を持っていたが、セウエールス帝の迫害のときに逮捕されます。その時のパペチュアは22才で、子どもを産んだばかりでした。また彼女と一緒に逮捕されたのは、彼女の乳飲み子と、女奴隷フェリキタスを含む4人の洗礼志願者だったそうです。

その後、彼女たちにキリスト教を伝えていた伝道師サテュロスが自首をして逮捕され、牢獄の中で4人の洗礼志願者たちは伝道師から洗礼を受けていきます。

逮捕されたときにフェリキタスは妊娠していました。当時妊娠中の女性を処刑することは違法とされていたので、彼女だけ別の場所に投獄されていました。しかし処刑を3日後に控えたときに、彼女は予定よりもかなり早く娘を出産し、パペチュアたちと同じ時に処刑されることとなります。

この殉教は「ペルペトゥアの殉教記録」に書かれており、彼女の手によるものと伝えられています。そこには二人の若い母親が受けた迫害の様子が黙示文学の手法で記述されています。



記録には、パペチュアが父の説得を二度拒んでそのまま殉教に向かった様子が書かれています。父はその後、彼女のそばから離れようとせず看守に殴られますが、彼女は「まるで自分が殴られたかのようだ」と記しています。

また、光も入らず、暗く、蒸し暑い牢獄の部屋を、生まれたばかりの子どもと一緒にいる喜びから「宮殿」と呼びます。また4つの夢の様子を克明に書いてもいます。

さて、彼女たちは闘技場に引き出され、どう猛な獣に襲われます。何度も角で突き刺され、最後には兵士に槍で突かれますが、彼女たちは平和の挨拶を交わしながら、歓喜のうちにその生涯を閉じたといえます。

<特禱>

全能の神よ、あなたはみ力と恵みによって、聖なる殉教者パペチュアと仲間たちに苦難に勝ち、死に至るまで忠実である生涯を与えられました。どうか恵みをもってわたしたちを強め、どのような迫害にも耐え、主イエス・キリストのみ名を忠実に証することができますように、主は父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられます。
アーメン